

コトバンクを検索

検索

サン・ピエトロ大聖堂

(読み) さんぴえとろだいせいどう (英語表記) Basilica di

San Pietro in Vaticano

日本大百科全書(ニッポニカ)「サン・ピエトロ大聖堂」の解説

サン・ピエトロ大聖堂

さんぴえとろだいせいどう

Basilica di San Pietro in Vaticano

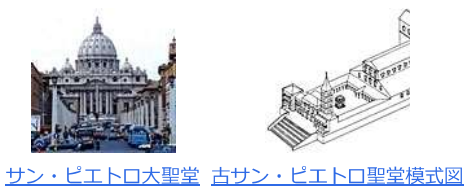
カトリック教会の中心をなすキリスト教世界最大の[聖堂](#)。バチカン市国にある。旧堂は326年にコンスタンティヌス大帝が十二使徒の筆頭者・聖[ペテロ](#)の墓の上に建てたものだが、荒廃し始めたため、教皇ニコラウス5世（在位1447～55）はベルナルド・ロッセリーノに命じて改築を計画させた。1452年ロッセリーノはまず祭室の増改築に着手するが、1455年教皇の死去で工事は中断。その後約半世紀を経て再開のめどがつくが、教皇ユリウス2世（在位1503～13）は、旧堂を全面的に取り壊して改めて新聖堂を再建することに決め、時の建築家たちの諸提案から[ブラマンテ](#)の立案を採用し、1506年に定礎式を行った。ブラマンテの構想はギリシア十字形のプランに、ローマのパンテオンから着想された[クーポラ](#)（円蓋(えんがい)）をのせ、周柱を巡らした頂塔をその上に立てるものであった。しかし1514年、中央のクーポラを支える4本の支柱の[建立](#)中に彼は世を去った。後継者に指名されたラファエッロはジュリアーノ・ダ・サンガッロとフラ・ジョコンドに協力を求め、ブラマンテによるギリシア十字形プランは典礼に不適合であるとして、ラテン十字形に改めて工事を進めようとする。しかし1520年にラファエッロも没し、バルダッサレ・[ペルッツィ](#)、ジュリアーノの甥(おい)のアントニオ・ダ・サンガッロと工事が引き継がれるが、その間、教会の財源の逼迫(ひっぱく)や有名な「ローマの略奪」のため工事の進展はみられなかった。

1546年アントニオの没後、独自の構想をもって登場し、工事を担当することになった[ミケランジェロ](#)は、齢(よわい)すでに72歳の老境にあったが、ふたたびギリシア十字形を採用して、クーポラを支える[タンブール](#)（円筒形部分）の外観効果を強調し、さらに堂内のアプスや礼拝堂の設計を改めた。今日みられる建築的特徴の多くは彼の構想に負うものである。1564年のミケランジェロ没後、彼が残した木製模型により、ジャコモ・デッラ・[ボルタ](#)の手でクーポラが完成された。17世紀になってパウルス5世（在位1605～21）の意向を受けたカルロ・マデルナが身廊を西側前方に延長させ、さらにナルテックス（前廊）を設けてラテン十字形プランに改め、1614年に壮麗な[ファサード](#)（正面）を構築した。かくして着工以来120年の歳月を経た1626年11月18日ウルバヌス8世により新大聖堂の[献堂式](#)が行われた。この年は奇しくも旧堂が献堂されてから1300年目にあたっていた。しかし工事はその後も続行され、1656～67年には[ベルニーニ](#)によって巨大な柱

廊を巡らした聖堂前広場が整備され、またこの柱廊から[教皇庁](#)に通ずる階段「スカラ・レジア」が1666年に完成されている。

東西186.36メートル、南北137.5メートル、クーボラの高さ132.5メートル、その直径42メートルの規模をもつこの巨大な聖堂は、[ルネサンス](#)およびバロック彫刻によってほとんど埋め尽くされている。アルノルフォ・ディ・カンピオ作と伝える『聖ペテロ像』、ミケランジェロの初期『[ピエタ](#)』、カノーバの『クレメンス8世の墓碑』、ベルニーニの『聖ペテロの司教座』と『ウルバヌス8世の墓碑』などが有名である。しかしここで特筆すべき作品は、クーボラの真下、すなわち聖ペテロの墓の真上にベルニーニが建てたブロンズの大天蓋(てんがい)で、世界最大の工芸美術品といえよう。なお、この聖堂のあるバチカン市国は1984年に世界遺産の文化遺産として登録されている（世界文化遺産）。

〔濱谷勝也〕



出典 小学館 日本大百科全書(ニッポニカ) / 日本大百科全書(ニッポニカ)について [情報](#) | [凡例](#)

百科事典マイペディア「サン・ピエトロ大聖堂」の解説

サン・ピエトロ大聖堂【サンピエトロだいせいどう】

[バチカン](#)にあるローマ・カトリック教会の主聖堂。Basilica di San Pietro。使徒[ペテロ](#)の墓所上に建立され、ギリシア十字プランを基本とし中央に壮大なドーム（直径42m）を架した盛期ルネサンス建築。旧聖堂（[教会堂建築](#)参照）は五廊式[バシリカ](#)で、ローマ皇帝[コンスタンティヌス](#) 1世によって324年に創建された。1452年教皇ニコラウス 5世が改修に着手し、その没後工事は中断したが、教皇ユリウス 2世が16世紀初めに[ブラマンテ](#)の案に基づいて工事を再開した。ブラマンテの死後、1515年―1520年[ラファエロ](#)、1520年―1546年A.da[サンガロ](#)、1547年―1564年[ミケランジェロ](#)（大ドームを設計）、1603年―1629年[マデルノ](#)（身廊、玄関廊、ファサードを設計）などが次々に監督を務め、イタリア・ルネサンス最大の建築事業となった。聖堂の前のサン・ピエトロ広場を囲む半円形の円柱回廊は1657年―1667年に[ベルニーニ](#)が建造。→関連項目[教皇庁](#) | [ニコラウス「5世」](#) | [バチカン宮殿](#) | [ビニョーラ](#) | [ポルタ](#) | [ボロミーニ](#) | [ミラノ大聖堂](#) | [ローマ（都市）](#)

出典 株式会社平凡社 / 百科事典マイペディアについて [情報](#)

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「サン・ピエトロ大聖堂」の解説

サン・ピエトロ大聖堂
サン・ピエトロだいせいどう
San Pietro

ローマ、バチカン市国内の大聖堂。旧バシリカと呼ばれる旧聖堂は、コンスタンチヌス帝により聖ペテロの墓所に建立(326/33～360頃)され、五廊式十字プランのバシリカ建築であった。ルネサンス期に教皇ニコラウス5世が改築計画を立てたが、現在の聖堂は16世紀教皇ユリウス2世の改築計画に始る。ブラマンテ、ラファエロ、A.サンガロ(1483～1546)を経て、1547年ミケランジェロが設計、建造に従事。ミケランジェロはブラマンテのギリシア十字プランと大ドームのアイデアを採用し、64年死去の際にはタンブールが完成していた。その後90年にG.ポルタが大ドームを完成、C.マデルノが1612年にファサードを、14年に身廊部を東部に延長し、ラテン十字形のバシリカに完成した。26年教皇ウルバヌス8世により献納され、のち67年G.ベルニーニによって[アトリウム](#)

もう一度検索

検索

関連語をあわせて調べる

- フォンタナ(Domenico Fontana)
- マデルナ(Carlo Maderna)
- コンスタンティヌス[1世]
- ジョバンニ・ダルマタ
- ニコラウス[5世]
- サン・ピエトロ広場
- エル・エスコリアル